

平成22年度現場見学会（第2回）報告書

主催 日本地すべり学会九州支部
斜面防災対策技術協会九州支部
九州地区地すべり防止工事士会

平成22年度の現場見学会（第2回）を大分県別府市の“乙原地すべり”及び“明礬地すべり”において開催した。温泉型地すべりの規模を体験し、機構解析・対策工の状況を学ぶことを目的とした。

1. 経過報告

日 付：平成22年10月22日（金）

募集人員：65名

参加費：2,000円（昼食代含）

工 程：別府駅西口広場 9:50 集合、10:00 出発

乙原地すべり 10:20～12:00

明礬(昼食) 12:20～13:10

明礬地すべり 13:10～15:30

別府駅着 16:00 解散

2. 事前準備

- ①今回の参加者が65名となったため、大型バス2台を準備した。
- ②説明資料は前日の論文集に掲載されているが、忘れた人や見学会のみの参加者のために10部程度用意した。
- ③参加者65名の内昼食を要らない人が6名いたので、当日の朝の時点で昼食の予約は59名分とした。
- ④乙原地すべりでは集水井戸の天盤を開け、灯光器を用意した。(明大工業)

3. 当日の記録

幹事は2班に分かれ、1班(2名)は先行して現地の準備を進めるため先発隊としてレンタカーにて移動した。2班(3名)は参加者と同行した。「乙原地すべり」はラクテンチという遊園地の中に存在しており、現地着の時刻が一般の来場者(バス6台分)と重なったため、入場に30分程度待たねばならなかった。

参加予定者は全員で69名であったが、前日までにキャンセル(協会に連絡済)した人が3名(協会員)、その日に来なかった人が1名(大分県職員)となり、結果的に65名の参加であった。参加者を県別でいえば、福岡県21名(幹事5名含)・熊本県2名・長崎県7名・大分県35名(県職員20名)であった。(詳細：添付資料)

4. 総 括

1) 参加者の感想(詳細：添付資料)

- ①遊園地での入場が 30 分程度遅れたので、「時間配分が悪い」・「連絡体制が悪い」という意見が出た。特殊な現場での見学となり、参加者に迷惑をかけたことは大きな反省点となった。
- ②温泉地すべり特有の「暴露試験」・「集水井戸対策」などが見学できたことは良かった。
- ③現在稼働中の現場・地すべり現象が目で見えるところを見たかった。
- ④「説明用のボードが欲しかった。」などの意見が出た。現場だけ来た人や前日の資料を忘れた人にも資料をもっと多く用意しておけば良かった。

2) 来年の見学地(詳細：添付資料)

来年の見学地の希望を聞いたところ、①県別では長崎県、②地区別では鷲尾岳地すべり、③地すべりタイプ別では大規模地すべりで施工中の現場、という意見が多く出た。来年の見学地開催に向けて参考にする。

3) 幹事の感想

見学地・世話役(幹事)・説明者共に概ね好評であった。特に明大工業(株)の方には事前の大分県との折衝や見学地での準備などに協力してもらい、感謝している。また、見学後に全員集合して意見交換したことは意義があることであった。しかし、2か所の見学としたことや遊園地での見学の方法など反省点も多く見受けられた。

反省点としては、

- ①遊園地での見学では予想以上に一般来場者が多く、歓声や遊具の音により説明内容が聞きづらいところがあり、大型のハンドマイク(拡声器)が必要であったと思う。
- ②参加人数が 50 名を超えると收拾がつかない面がみられた。グループ分けして案内するか、参加人数を制限する必要性を感じた。
- ③来年の見学会の時期は、準備期間が 3~4 か月かかることを考えると今まで通り 10 月開催が望ましい。
- ④県職員は現地集合・現地解散・個人移動・昼食自費参加など行動の実態を把握できないところがあった。今後は発注者からの参加者も一般参加者と同一参加費・同一行動を原則とするよう周知すべきである。

5. 会計報告

別紙参照。